孤独を恐れず、豊かなる出会いを信じて…

以前に掲載した当 HP の「不法生命訴訟と不法出生訴訟」に関する記載（「雑学」バックナンバーサイト書籍等読後感関係（Ｉ）P 2003. 6.21.「生命学って、どんな学問？」：参照）を目に留めて下さった元大学教授から、「話したい」とお電話をわざわざいただき、お会いした。

親しくお話させていただいのは初めての先生であったが、記載に関する資料等をわざわざお持ち下さった。

その中には、先生の友人、知人（精神科医、弁護士、MSW、大学の先生、等々）へ、私の記事コピーを送っての意見を求めた返信や友人等からの関連文献もあった。

文献の中に、「キリスト教的な立場から障害（病気）の意味と障害の由来についての考察」の小論もあったが、私にしては初めての側面からの考察の小論だけに、新たな知識に出会った喜びを感じさせていただいた。

こうして私の一記事を気に留めて下さり、色んな立場の専門家から意見を聞いて下さり、しかもわざわざ私に届ける機会を作って下さった先生のお心が、唯々ありがたく、感謝あるのみ。

先日読んだ「１４歳からの哲学」に、「考えることは面白いこと。考えることが面白いと語り合える人、解り合える人に幸運にも出会うことができたなら、それこそが人生で素晴らしいこと。お互いにいっそう考えを深めて行くことが出来る。

語り合える人、解り合える人が周りにいないからと孤独を恐れることはない。孤独を恐れ、周りに併合することはない。そこには、自分で考え、納得する人生はない。

考えるという孤独を愛することができるということは、自分を愛することができるということ。自分を愛することが出来ない人に、どうして他人を愛することができるだろうか。孤独は空虚なものでなく、豊かなものだ。」との内容記述があった。

正に、ＨＰを通しての先生との出会いは、この記述の具体的事例であろう。

これからも気づいたこと、考えたことを、孤独を恐れずにＨＰ上で発信し続けたいと思う。

その延長線上にこそ、豊かなる出会いがあることを信じて……。

（2005 年 4 月 23 日　記）